

教育の質の保証と 卒業生を含めた学生 支援は大学の責任です

日本大学 総長 酒井健夫

取材文／堀水潤 撮影／中岡邦夫



【総長プロフィール】1943年生まれ。日本大学農獣医学部(現 生物資源科学部)獣医学科卒業。日本大学農獣医学部教授、生物資源科学部長、日本大学理事、副総長などを経て、2008年より現職。

【大学プロフィール】1889年日本法律学校として創立。法学部、文理学部、経済学部、商学部、芸術学部、国際関係学部、理工学部、生産工学部、工学部、医学部、歯学部、松戸歯学部、生物資源科学部、薬学部の14学部83学科体制。

本学は14学部83学科のほか、通信教育部、大学院、短期大学部を擁する総合大学です。それは、あらゆる学問領域をカバーする学びの場があるということ。

学部間の連携が密接で、「相互履修制度」や「遠隔授業」を活用すれば、他学部や他学科の授業科目が履修可能です。また、1年次から少人数対話型の基礎ゼミを必修とする学部や、フィールド実習に力を入れる学部など、教育手法も多彩です。さらに、100万人を超える卒業生、すなわち校友の支援を受け、実践的な教育にも積極的に取り組んでいます。

4年後の創立125周年に向け、選択と集中による教育組織の規模の適正化を図り、教育の質を一層高めています。学科の新設や再編を検討するだけではありません。既存の学部、学科の枠を取り払い、自由な発想で教育研究ができる仕組みを作り、特色ある教育の展開を図っています。昨今、大学間で教育連携を図る動きが盛んですが、学内で様々な連携ができるのは、多くの学部、学科を備えた本学ならではの長です。本学には、学生が知的好奇心をもつて幅広く学ぶことのできるステージが、数多く用意されています。

2011年度の導入を目指す「N方式

入試」もまた本学ならではのものです。日本大学版センター試験といえます。複数学部の統一の入試は、本学が学生に求める学力を定義することにもつながります。

大学の入り口である入試以上に重視すべきは、出口である就職指導です。大学の4年間は社会につながる準備期間。能力を伸ばし、社会で活躍できる実力を養う指導に力を入れています。本学の学生は、明るく、きちんと挨拶ができ、何事も真剣に取り組んでいます。本当に人柄が良い。でもそれだけでは足りません。志を高くもった生き方を願って指導しています。

本学の建学の精神「自主創造」は、自ら道を切り開く自立の精神で、これを実践する人材を育成しています。

もちろん、大学から人材を社会に送り出すだけではありません。雇用が不安定な社会状況を考えると、卒業生の学び直しの場の提供、また再就職支援の強化も大学の責任です。

教育の質の保証が問われている今日、大学には在學生はもとより、卒業生も含めた生涯にわたる学びの場の提供が求められています。日本大学は、こうした取り組みを積極的にを行い、社会に対する責任を果たして参ります。